

＜クリスマス・ドロップ作戦＞ファイス島にプレゼント届く *Presents in the trees on Fais Island*

December 17, 2018

374th Airlift Wing Public Affairs

(写真1)ミクロネシア連邦のファイス島。12月10日、この島にある3つの村がクリスマス・ドロップ作戦を待ち受けた。

ファイス島は太平洋上のヤップ島から北東に約156マイル(251キロメートル)離れた島で、横田基地第36空輸中隊のC-130Jスーパーハーキュリーズは、この島の島民へ1000ポンド(453キロ)以上の農業用具、食糧、衣類、教育用品、医療品を届けた。



1

(写真2)12月10日、ミクロネシア連邦のファイス島へ人道支援物資を詰めた低コスト低高度の梱包箱3つを投下する第36空輸中隊のC-130Jスーパーハーキュリーズ。

横田基地第36空輸中隊は、アジア太平洋地域における唯一の現役C-130の部隊であり、米太平洋軍の有事対応に欠かせない戦術空輸を提供。そして、同作戦プログラムでパートナー国と手順を共有することで、低コスト低高度空中投下の戦略の道を拓いている。



2

(写真3)投下された支援物資の箱を村の集会所へ運ぶミクロネシア連邦のファイス島の島民たち。

クリスマス・ドロップ作戦は、人道支援および災害支援訓練の一環で、乗員たちが未調査地点への投下訓練を行うだけでなく、人道支援および災害支援への対応力を強化を図りながら、生活必需品が十分に揃わない太平洋に浮かぶ56のミクロネシアの島々に6万ポンド(27トン)以上の人道支援物資を届けるために実施されている。



3